

令和8年度 事業計画書

一般社団法人 北海道消費者協会

目 次

令和8年度 取り組みの重点	-----	1
I 一般社団法人北海道消費者協会事業計画	-----	2 ~ 7
1 暮らしを守り、安全で住みよい地域社会をつくる	-----	2
2 北海道の豊かな食や自然を生かすとともに、食の安全を求める	-----	3
3 地球環境を保全し、原発に依存しない社会を目指す	-----	3
4 「消費者力」「見守り力」を高め、被害やトラブルを防止する	-----	4
5 生活に役立つ商品情報や正しい知識をタイムリーに発信する	-----	6
6 持続的に活動できる組織の基盤を確立し、消費者運動の輪を広げる	-----	6
II 北海道立消費生活センター事業計画	-----	8 ~ 10
1 消費生活相談	-----	8
2 消費者教育・啓発	-----	9
3 商品テスト	-----	10
III 消費者行政推進受託事業計画	-----	10 ~ 12
1 地方消費者行政担い手育成事業	-----	10
2 見守りネットワーク活動支援事業	-----	11
3 消費者教育推進事業	-----	12
4 消費生活相談員配置事業	-----	12

令和8年度 取り組みの重点

テーマ： つむぐ つながる 消費者の力

終わることのない物価高、迷走する米政策。そして実質賃金は低迷したままです。私たちの暮らしの不安はなお続いています。低所得世帯など弱者の救済も十分と言えるでしょうか。まさに消費者がしっかりと声を挙げ、それを届けていく時です。日々の暮らしを生きる人はすべてが消費者です。その声たちをつむぎ、つなげ、消費者として一層の発信と行動を強めましょう。

SDGs（持続可能な開発目標）は2030年の達成期限まであと4年です。目標12の「つくる責任つかう責任」は、行動で社会の変革を促す消費者運動の本質ともいえます。省エネや食品ロス削減、エシカル消費を進め、私たちが「行動変容」を強く意識することで、脱炭素社会の実現へさらに歩みを進めましょう。

急速に進展するデジタル社会の中で、その利便性と可能性が広がる一方、高齢者などデジタルを使いこなせない人が不便を強いられるデジタルデバイド（情報格差）の問題も顕著になっています。また、SNS（交流サイト）を介した詐欺事件や悪質商法が急増しています。デジタル社会の中での消費者問題を見つめ、活用と被害防止に目配りをしていきましょう。

泊原発が再稼働されることになりましたが、今後の動きを注視しつつ、引き続き脱原発、再生可能エネルギー活用への取り組みを強めましょう。高レベル放射性廃棄物の地下埋設処分問題にも注目します。一方、38%という日本の食料自給率（カロリーベース）の向上を求めて行きましょう。

< 取り組みの重点項目 >

- 1 くらしを守り、安全で住みよい地域社会をつくる
- 2 北海道の豊かな食や自然を生かすとともに、食の安全を求める
- 3 地球環境を保全し、原発に依存しない社会を目指す
- 4 「消費者力」「見守り力」を高め、被害やトラブルを防止する
- 5 生活に役立つ商品情報や正しい知識をタイムリーに発信する
- 6 持続的に活動できる組織の基盤を確立し、消費者運動の輪を広げる

I 一般社団法人北海道消費者協会事業計画

1 くらしを守り、安全で住みよい地域社会をつくる

SDGsは「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくり」を目標に掲げている。だれもが安心してくらす地域社会づくりを進めるため、しっかりとした社会保障制度、すべての人に公正な税制、地域を支える公共交通機関のあり方を注視する。長引く物価高騰は家計に大きな打撃を与えており、電気・灯油・ガソリン・LPガスなどのエネルギー、主食のコメをはじめとする食料品、その他生活必需品の価格動向を監視し、要請や発信をしていく。

(1) 安心してくらす社会保障制度、税制の確立（総務・組織連携G）

- ・ 年金や医療・介護、子育て支援など、だれもが安心してくらす社会保障制度、低所得者等に配慮した公正な税制の確立を求め、必要に応じて学習会の開催や国などへの要請を行う。

(2) 情報社会の進展への対応（総務・組織連携G、デジタル推進・企画担当）

- ・ インターネットやパソコン等の情報通信技術（ICT）を利用できること・できないことで生じる格差（デジタルデバイド）が、生活に深刻な影響を与えないよう注視し、必要な提言及びスマホ教室等の啓発を行う。特に高齢者のデジタルデバイドの解消に向けた啓発・情報発信を行う。
- ・ ECサイト*の普及など、情報通信技術の発達に起因した経済的・健康的被害が生じないように学習会の開催や役立つ情報の発信に努める。

※ECサイト：Electronic Commerce（電子商取引）サイトの略。インターネット上で商品やサービスを売買できるウェブサイト

(3) 米などの食料品、石油製品など生活必需品の価格抑制（総務・組織連携G）

- ・ 「令和の米騒動」のような品不足、流通の混乱を監視し、石油製品や食料品などの値上げに対し、価格安定対策とともに便乗値上げなどが起きないように注視し社会的弱者を含め必要な対応を国や道などに求める。
- ・ 灯油、ガソリン、LPガス小売価格の動向を調査・公表し、必要に応じて取引の適正化・透明化を国などに要請する。

(4) 電力改革や新エネルギーの動向を注視（総務・組織連携G）

- ・ 太陽光発電や洋上風力発電などの再生可能エネルギーの利用拡大が消費者利益につながるかを見守るとともに、法令に違反する電力施設で発電された電力の供給に注視し、消費者の選択に役立つ情報を発信する。

(5) 公共交通の充実と安全運行の確立（総務・組織連携G）

- ・ 生活路線の維持、公共交通機関の安全運行の確立、利便性の向上、物流の維持を求め、必要に応じて国や道、関係機関に問題提起や要請を行う。
- ・ JR北海道の鉄道事業の見直しの影響などを見極め、必要に応じて関係機関に問題提起や要請を行う。

2 北海道の豊かな食や自然を生かすとともに、食の安全を求める

北海道の豊かで安全な食を守り、地産地消など安全で安心な食料生産のため、農林水産業の現状への理解を一層深める。生産者との連携を一層強化し、海外依存で低下した食料自給率の向上を目指すとともに、SDGs で掲げられた「2030年までに世界全体の一人あたりの食料廃棄を半減させる」との目標に沿って、食品ロス削減の取り組みをさらに拡大させる。

(1) 食料自給率を高め、食品ロスを減らす（教育啓発G、総務・組織連携G）

- ・ 食料自給率向上のため、地産地消の取り組みを継続・拡大する。
- ・ 賞味期限と消費期限の違いに理解を深めるとともに、国が提唱している「mottECO（モッテコ）※」の取り組みを普及し、消費段階での食品ロスの削減に努める。
- ・ 家庭の余剰食品を活用するフードドライブを地域協会などと連携し消費者運動として推進する。
- ・ 生産、加工、流通の各段階で発生する食品ロスにも関心を深め、生産者との連携を強める。

※mottECO（モッテコ）：食品ロスや脱プラスチックを目的とした、食べ残し持ち帰りなどの普及、定着に向けての取り組み

(2) 食品表示法等に基づく厳正な表示の確保（商品テストG、総務・組織連携G）

- ・ 食品表示基準について理解を深め、食生活の改善に役立てる。原料原産地等が適正に表示されているか注視し、必要に応じて意見を発信する。
- ・ 令和6年の食品表示法と食品衛生法の改正を踏まえ、機能性表示食品の表示方法について注視し、必要に応じて意見を発信する。

(3) 食の安全を求める（商品テストG、総務・組織連携G）

- ・ 残留農薬や食品添加物などの監視体制の充実強化を働きかける。
- ・ 遺伝子組み換え作物使用食品は、全て表示義務対象品とするほか、分かりやすい表示を要請する。
- ・ ゲノム編集技術応用食品は、消費者が判断できるよう十分な情報公開と表示制度の確立を求める。
- ・ 安全・安心な食料の再生産を維持するため農家が種や苗を自家増殖する「種の権利」を認め、特定事業者による種子の独占を危惧し注視する。

(4) 牛乳・乳製品の消費拡大事業の実施（総務・組織連携G）

- ・ 関係団体との協力のもと、牛乳・乳製品の知識と幅広い調理方法を普及し、消費拡大と食生活の改善、健康づくりに寄与する。

(5) 北海道米の消費拡大事業の実施（総務・組織連携G）

- ・ 関係団体との協力のもと、米食を中心とする日本型食生活の健康上の優位性などを啓発し、北海道米の消費拡大と食生活の改善、健康づくりに寄与する。

3 地球環境を保全し、原発に依存しない社会を目指す

かけがえのない地球を守り、持続可能な社会を将来世代に引き継いでいくために、環境に配慮したグリーン志向の消費行動を促進するとともに、東日本大震災による「福島第一原発事故」の教訓を踏まえ、「原発に依存しない社会」を目指し、再生可能エネルギーの活用拡大を国や電力会社に求める。SDGsの目標の一つ「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の理念のもと、省エネ、リサイクルを徹底して地球温暖化防止に取り組み、2050年の脱炭素社会の実現に努める。

(1) 脱原発の推進と核ごみ処分場問題の注視（総務・組織連携G）

- ・ 国や電力会社に対し、脱原発を推進するための中長期ビジョンの策定、老朽原発の廃炉促進、核燃料サイクル事業からの撤退を求める。
- ・ 原発の安全性に対する不安や避難計画の不備に加え、使用済み核燃料の処理や、福島原発事故処理水の風評被害が懸念されており、なし崩し的に進む再稼働に反対する。
- ・ 北海道電力が2027年度の再稼働を目差している泊原発3号機については、道民に不安や不信感、安全性に対する懸念があることからその必要性について再考を求めていく。
- ・ 道内2町村で文献調査入りした高レベル放射性廃棄物（核のごみ）の最終処分場選定問題では「拙速な選定に反対する意見表明」を行っており、引き続き注視する。

(2) 再生可能エネルギーの推進（総務・組織連携G）

- ・ 原発に依存せず、脱炭素社会を実現するため、再生可能エネルギーの現状や課題を学び、再エネの活用を推進するとともに、発電施設の立地や工事に伴う環境への影響、健康被害、契約上のトラブル等についても理解を深め、法令に違反する電力施設で発電された電力の供給を注視し、消費者の選択に役立つ情報を発信する。

(3) 省エネ・省資源と循環型社会の推進（教育啓発G、総務・組織連携G）

- ・ ライフスタイルの見直しや節電を促すとともに、家庭におけるCO2削減、環境負荷の低減についての啓発に努める。
- ・ 地域の中で資源が循環する持続可能な社会を目指し、ごみの3R（リデュース＝排出抑制、リユース＝再利用、リサイクル＝再資源化）や適正処理などの情報提供や啓発、実践に努める。
- ・ 海洋汚染などをもたらすプラスチックごみを減らす取り組みを推進する。

4 「消費者力」「見守り力」を高め、被害やトラブルを防止する

デジタル技術の進展は、SNS型投資詐欺など新たな消費者被害を拡大させている側面もある。そうした被害を防ぐための法令改正、法規制強化を求め、世代に応じた消費者教育・啓発活動を推進する。新たな問題に的確に対応出来るよう学習を深め「消費者力」を高める。地域における消費者被害防止ネットワーク（消費者安全確保地域協議会）を拡大し支援することで、地域の「見守り力」を引き上げる。活動を通じ消費生活やデジタル化など各分野で社会的弱者を守り、講座や情報発信ではインターネットを活用するなど工夫を凝らす。

- (1) 学習会の開催（総務・組織連携G、デジタル推進・企画担当）
 - ・ 時々の消費生活に関わる問題を提起し、消費者の意識向上に資するため、消費者問題学習会を開催する。（地域開催）
 - ・ 緊急性を有する消費者問題等をテーマに学習会を適宜開催する。
 - ・ スマホ操作を含むデジタル問題にかかわる課題解決型学習を地域消費者協会、行政・教育機関・警察などと連携して開催する。
 - ・ エシカル消費に関する教材などを開発し、課題解決型学習会を地域消費者協会・教育機関などと連携し開催する。
- (2) 協会会報「北の暮らし」の発行（総務・組織連携G）
 - ・ 消費生活に関する正しい知識の普及や情報提供を行い、悪質商法等の追放や暮らしの安定に資する。（年6回発行）
- (3) ホームページの運営とSNSによる情報発信（総務・組織連携G、デジタル推進・企画担当）
 - ・ 協会のさまざまな取り組みや消費者問題の最新情報等を提供する。
 - ・ 多様な情報発信を目指し、SNSの運用を進める。
- (4) 消費者月間に啓発事業を展開（教育啓発G、総務・組織連携G）
 - ・ 本年度全国統一テーマ「見える情報 見えない仕組み ～AI時代の消費者力を高めるために～」に沿って活動を行う。
 - ・ 重要テーマとして悪質商法追放と会員増強を掲げる。悪質商法追放では、消費者意識の向上と特殊詐欺など消費者被害の未然防止に努める。
実施期間：5月
取組内容：講座、街頭PR活動など
- (5) 関係機関との連携強化（各G）
 - ・ 北海道警察や北海道農政事務所等の関係機関との連携を強化する。
- (6) 報道機関等との連携（各G）
 - ・ 消費生活に関する情報や資料などを報道機関等に積極的に提供し、悪質商法の追放や消費者被害の未然防止、消費生活の改善につなげる。
- (7) 特定適格消費者団体との連携強化（総務・組織連携G、相談支援G）
 - ・ 特定適格消費者団体の消費者支援ネット北海道（ホクネット）との連携を強化する。
- (8) 消費者被害防止ネットワークとの連携（教育啓発G、デジタル推進・企画担当、総務・組織連携G）
 - ・ 消費者被害防止に資することを目的に関係機関・団体で組織する「北海道消費者被害防止ネットワーク」の一員として、消費生活に関する情報の提供や消費者教育・啓発の推進に努める。
- (9) 消費者教育支援セミナーの開催（教育啓発G）
 - ・ 成年年齢が引き下げられたことに伴い、若年者を狙った悪質商法から身を守り、お金や情報と上手に向き合う能力を身につける消費者教育を充実させるため、関係機関と連携し、小中高等学校の教職員等に若年者の被害の現状や未然防止策などを提供する。

5 生活に役立つ商品情報や正しい知識をタイムリーに発信する

身近な商品の安全性や性能などの研究、試買テストなどを通じて消費者に商品の正しい知識や注意喚起を適宜・適切に発信する。メーカーや業界団体、行政機関などに問題提起や情報提供を行い、対策や改善を求める。

(1) 試買テストの実施（商品テストG）

- ・ 消費者の関心が高い商品、日常生活に必要な商品などの安全性や品質、性能、表示状況などのテストや調査を行い、消費者に的確な商品情報や知識を提供し、商品選択の参考に資する。

(2) テストに基づく商品改善の要請（商品テストG）

- ・ テストの結果、安全性・品質・性能などに問題が判明した場合、行政や業界団体、事業者の問題提起をし、改善を求める。

6 持続的に活動できる組織の基盤を確立し、消費者運動の輪を広げる

人口減少や高齢化の進展などで地域協会の会員数が減少する中、全道のネットワークを活かしながら持続的、安定的、効果的に消費者運動・協会活動を続けていくため、事業の見直し、再構築を適宜進める。中・高・大学生らとの連携を深めながら幅広い世代に効果的に情報を発信し、さまざまな団体・個人と連携し運動の輪を広げる。協会活動においてもデジタル化を進め、オンライン講座などの活用を進める。

(1) 会員増強の取り組み（総務・組織連携G）

- ・ 「会員増強」を5月の消費者月間における重点テーマとし、組織の拡大に向けた全道的な取り組みとする。また、くらしの安全・安心に関心を寄せる他団体や個人との連携を深めて理解者を増やし会員増につなげる。

(2) 地域協会・ブロック連合会への支援と連携（総務・組織連携G、教育啓発G、デジタル推進・企画担当）

- ・ 地域協会・ブロック連合会（協議会）と連携して開催する学習会、講演会などに講師を派遣する。
- ・ 地域協会・ブロック連合会が主催する行事等に講師派遣や資料提供、パネル貸し出しなどの支援を行う。
- ・ 地域協会・ブロック連合会の円滑な運営や組織拡大などの活動を支援するため情報交換を密にし、連携した取り組みを積極的に行う。
- ・ 地域協会の組織活動促進及びブロック連合会の運営支援のため助成を行う。

(3) 賛助会員との連携（総務・組織連携G）

- ・ 各種業界団体に消費者協会の活動に理解と協力を要請し、連携強化に努める。
- ・ 協力関係を深めるために情報交換などを行う意見交換会を開催する。

(4) 未組織市町村への設立支援（総務・組織連携G）

- ・ 消費者協会未組織市町村に対し、さまざまな機会を活用して設立機運の醸成

を図る。

- ・ 機運のある地域には、地元行政などの理解も得ながら設立へ向けて支援を行う。

(5) 北海道消費者大会の開催（総務・組織連携G）

- ・ 消費者問題への積極的な取り組み、消費者の自主的な活動の推進、組織の一層の拡大強化を図るため、消費者運動に関わる関係者が一堂に会する第63回北海道消費者大会を開催する。

実施時期：9月8日（火）

開催場所：札幌市（札幌市教育文化会館小ホール）

(6) 消費者運動代表者会議の開催（総務・組織連携G）

- ・ 当面する諸問題について学習や意見交換を行い組織的活動の推進に資するため、地域消費者協会の代表者による消費者運動代表者会議を開催する。

実施時期：第1回＝7月、第2回＝11月

開催場所：札幌市（道立消費生活センター 暮らしの教室）

(7) 「事務局だより」の発行（総務・組織連携G）

- ・ 道協会の活動状況、運動の基本的な考え方や消費者問題などの情報提供を行い、地域協会と情報の共有化と、組織の連携・強化を図る。（適宜発行）

(8) 消費者問題実態調査の実施（デジタル推進・企画担当）

- ・ 消費者問題全般に関する時々の諸課題について全道の消費者にアンケート調査を行い、活動の参考資料とする。

(9) 消費生活リーダー養成講座の開催（教育啓発G）

- ・ 消費者問題に深い関心を持ち、地域の消費者活動を支える意欲のある人を対象に、消費生活リーダーに必要な知識等の研修を行い、消費者運動の中核となるリーダー等を育成する。消費生活に関心を持つ幅広い層にも研修の場を提供する。

開催期間：7月～8月（20日間）、募集人数：25名

開催場所：札幌市（道立消費生活センター 暮らしの教室）

(10) 通信講座消費生活スタディの実施（総務・組織連携G）

- ・ 消費者問題に深い関心を持ち、地域の消費者活動を支える意欲のある人を対象に、通信講座で消費生活に必要な知識の習得による消費者力の向上を図り、消費者活動に積極的に参加する人材を育成する。

開催期間：10月～3月（スクーリング：3月）

募集人員：50名

開催場所：札幌市（道立消費生活センター 暮らしの教室）

(11) 消費生活リーダー研修講座の開催（総務・組織連携G）

- ・ 地域協会役職員、消費生活リーダー養成講座や通信講座消費生活スタディの修了者等を対象に、時宜を捉えた消費者問題に関わる情報の提供を行い、消費者活動の資質の向上を図り、地域協会等での活動の効果的な推進に資する。

開催時期：1回目＝6月、2回目＝11月、3回目＝2月（各回1日）

内 容：消費者問題全般

開催場所：札幌市（道立消費生活センター 暮らしの教室）

Ⅱ 北海道立消費生活センター事業計画

令和4年度から令和8年度に係る道立消費生活センターの指定管理者の指定を北海道から受けている。情報通信技術（ICT）の進展を見据え、令和8年度は消費生活相談、消費者教育・啓発、商品テストの業務運営及びセンター施設の管理等に次のとおり取り組む。

1 消費生活相談

(1) 消費生活相談（相談支援G）

- ・ 消費者から寄せられた相談に対し、自主解決のための助言や斡旋等を行い、消費者利益の擁護と増進を図る。（受付時間：平日9時～16時30分）
- ・ NTTによるIP電話サービス提供が令和8（2026）年9月末で終了することから、9月1日から新たな電話相談専用電話番号の供用を開始するとともに、相談支援に支障を来さないよう関係機関等への周知に万全を期す。

(2) 電子メール相談（相談支援G）

- ・ 消費生活相談窓口開設時間に相談できない消費者の相談に対応するため、電子メールによる相談を実施する。（受付時間：24時間、通年実施）

(3) 市町村相談専用電話による支援（相談支援G）

- ・ 市町村からの相談等に対応するため専用電話番号を用意し、道内を4地域に分け、地域毎に担当相談員を配置、消費生活業務が円滑に処理できるよう情報提供・助言等を行う。（受付時間：平日9時～16時30分）

(4) 全国消費生活情報ネットワークシステムへの情報入力、管理等（相談支援G）

- ・ 全国消費生活情報ネットワークシステム（PIO-NET）に相談情報を入力し、苦情相談等の迅速な処理と被害発生情報等の的確な把握に努める。

(5) 苦情処理専門員の配置（相談支援G）

- ・ 弁護士・臨床心理士等の専門家に苦情処理専門員を委嘱し、助言を受けることにより高度の専門性を必要とする苦情に迅速かつ的確に対応するとともに、相談員等が対応困難な案件への対応技術の習得に努める。

(6) 各種会議・研修などへの参加（相談支援G）

- ・ 複雑多様化する消費者問題や新たな法律の制定・改正に対応するため、（独）国民生活センター等が主催する研修講座や関係機関等が実施する研修等に参加し職員や相談員の資質の向上に努める。

(7) 市町村への情報提供（相談支援G）

- ・ 道が運営するメーリングリストを活用して、市町村に対して道立消費生活センターが受理した消費生活相談に基づく最新情報や新たな手口の情報提供を行い、市町村が行う相談業務を支援する。

(8) 特別相談の実施（相談支援G）

- ・ 潜在的な消費者被害の掘り起こしや実態把握と被害拡大防止のため、札幌弁

護士会と共催して特別相談を実施する。(実施日：土・日・祝日、年2回)

2 消費者教育・啓発

(1) センターニュースの発行(教育啓発G)

- ・ 暮らしに役立つ情報(消費生活関連情報、相談事例、商品テスト結果、消費者関連、行政の動き等)を広く道民に提供し、消費生活の向上に資する。

(2) 展示ホール・くらしの広場の活用(教育啓発G)

- ・ 消費者、団体、PTA、民生委員、児童生徒、学生等の見学者に対し、商品テストの結果を実物やパネル等で展示し、問題点の説明を行い、消費者啓発に努める。
- ・ 消費生活に関するDVDや視聴覚装置を備え、消費者が学習しやすい環境づくりに努め、自立支援をする。
- ・ パソコンを活用し、消費者団体等の学習支援やパソコン操作に関する助言・支援を行う。
- ・ 消費生活に関する各種書籍類を系統的に配置し、施設利用者の利便性を高める。

(3) パネルの作成及び貸出し等(教育啓発G)

- ・ 試買テストの結果や消費者関連法令等を解説したパネルを作成し、市町村や団体等からの依頼により貸出しやデータのダウンロードを可能にして、消費者教育・啓発に資する。

(4) 各種啓発資料の作成(教育啓発G)

- ・ リーフレット等を作成し、地域で開催される各種講座において配布する。
- ・ 市町村等からの依頼により資料を提供する。

(5) くらしの教室の活用(教育啓発G)

- ・ 消費生活問題に関する公開講座(セミナー)を開催し、広く消費者の自立支援を推進する。
- ・ 消費者(団体)が行う消費生活に関する学習会、研修会等に貸出し、活動を支援する。

(6) 親子体験学習講座の実施(教育啓発G)

- ・ 学校の休暇時期に、児童・保護者を対象に開催し、消費生活分野への理解と関心を深めるよう支援する。

(7) 講師派遣の実施(教育啓発G、デジタル推進・企画担当)

- ・ 各種団体等が開催する消費者啓発講座などに対し講師を派遣し、エシカル消費などの消費者意識の啓発、消費生活の安定・向上のため支援する。

(8) 北海道消費者被害防止ネットワーク活動(教育啓発G)

- ・ 消費者被害防止ネットワーク構成団体の一員及び事務局として、各団体の取組状況や被害情報等の情報交換を進め、統一して被害防止に係る活動を実施するなどして連携に努める。

- (9) 消費者被害防止の推進（教育啓発G）
- ・ ネットワークニュースを発行し、被害防止のための注意喚起に努める。
 - ・ センターニュースの相談事例等の市町村広報紙等への掲載を働きかける。
- (10) 広報媒体を通じた啓発活動（教育啓発G）
- ・ 広報媒体を通じ、消費者問題に関する一般消費者への啓発が行われるよう働きかける。
- (11) ホームページの活用（教育啓発G）
- ・ 最新情報の掲載に努めるほか、表示の工夫等により見やすく利便性を高めたものとし、より多くの消費者に利用されるよう努める。

3 商品テスト

- (1) 依頼テスト（商品テストG）
- ・ 消費者、地域消費生活センター、地域消費者協会、他団体などから寄せられる商品に関する苦情や問い合わせに対し、安全性・品質・性能などについて必要なテストを行い、問題の解決に資する。また、専門性を活かした技術相談にも対応し相談解決の一助とする。なお、テストの結果は必要に応じて、事業者や行政に情報提供し、商品の安全性・品質等の改善を求め、今後の被害の未然防止に寄与する。
- 主なテスト品目：食品、繊維、雑貨、家庭機器等
主なテスト項目：添加物、成分分析、品質分析、残留農薬、重金属、放射性物質（道外産のもの等条件有り）、組成鑑別、染色堅ろう度、保温性、耐洗濯性、安全性、品質、性能、軟エックス線解析、蛍光エックス線解析など
- (2) 試買テスト（商品テストG）
- ・ 消費生活相談に伴いテストが必要と考えられる商品、消費者の関心が高く日常生活に必要な商品の安全性や品質・性能・表示状況などについて、テストや調査を行い、消費者に的確な商品情報や知識を提供し、商品選択の参考に資する。

Ⅲ 消費者行政推進受託事業計画

北海道から委託を受けた消費者行政推進事業について、情報通信技術（ICT）の進展に合わせ、オンライン会議システム等を活用しながら、次のとおり取り組む。

1 地方消費者行政担い手育成事業

市町村における住民の消費者力向上に向けた取組や消費生活相談体制の維持向上等の地域力強化に向けた取組を支援するため、市町村において消費者行政に従事する者や地域消費者被害防止ネットワークの構成団体の職員等を対象とした研修を開催するなど、市町村が実施する消費者施策の推進に資する担い手の育成を図る。

- (1) 全道研修（高度専門）（教育啓発G）
 - ・ 高度専門的な知識、最新の被害事例を踏まえた対応手法や関係機関との連携手法等の習得等を目的として開催する。
- (2) 全道研修（初任者）（相談支援G）
 - ・ 消費者行政の基本、基礎的な知識、消費生活相談や高齢者等の見守り活動に必要な対応手法や関係機関との連携手法等の習得等を目的として開催する。
- (3) 地域研修（専門）（教育啓発G）
 - ・ 具体的な消費生活相談事例等を踏まえた専門的な知識や対応手法、関係機関との連携手法等の習得等を目的として開催する。
- (4) 地域研修（一般）（相談支援G）
 - ・ 消費生活相談や高齢者等の見守り活動に必要な知識や対応手法、関係機関との連携手法等及び最新の消費生活関連情報等の習得等を目的として開催する。
- (5) 実務研修（相談支援G）
 - ・ 消費者行政の基本、基礎的な知識、消費生活相談や高齢者等の見守り活動に必要な対応手法や関係機関との連携手法等の習得等を目的として開催する（P I O－N E T研修を含む）。
- (6) 随時研修（相談支援G）
 - ・ 市町村の要望に応じた内容で、消費者行政担当者等の来札の機会に併せて実施する。
- (7) 現地研修（相談支援G）
 - ・ 解決困難事案、相談体制の維持向上及び高齢者等の見守り活動等に関して、現地での支援が、特に必要と認められる場合に実施する。

2 見守りネットワーク活動支援事業

高齢者等の消費者被害の未然防止や早期発見等、消費者の安全を確保するための取組をより一層推進するため、見守りネットワーク（消費者被害防止ネットワーク）未設置市町村への効果的な働きかけの手法等を検討し、地域レベルで市町村や関係機関、団体等で構成する見守りネットワークの設置を促進する。

- (1) 未設置市町村等への働きかけ（教育啓発G、デジタル推進・企画担当）
 - ・ 見守りネットワーク未設置市町村を訪問するなどし、消費者行政担当部署等に対し資料に基づき説明するとともに、地域の実情や課題等を聴取した上で、見守りネットワーク構築や消費者安全確保地域協議会の整備に向けたアドバイスや情報提供を行い、設置を働きかける。
- (2) 見守りネットワークセミナー（教育啓発G）
 - ・ 老人クラブ、民生委員、ケアマネージャー、ヘルパー等の高齢者に接する機会が多い関係者や行政職員等を対象に、悪質商法やその対策に係る講義や、見守りネットワーク設立や既存ネットワークの活性化を促進するセミナーを開催する。

(3) 関係資料の作成（教育啓発G）

- ・ 消費者安全法や改正消費者安全法の実施に係る地方消費者行政ガイドライン等の国の動きや、北海道消費生活基本計画や既に道内に設置されている見守りネットワークの状況等を取りまとめた資料を作成する。

(4) 設置促進員の配置（教育啓発G）

- ・ 見守りネットワーク活動支援事業に必要な業務等に従事する促進員を配置する。

3 消費者教育推進事業

道民がどこに住んでいても生涯を通じて様々な場で消費者教育を受けることができるよう、若年者や高齢者など消費者の特性に応じたセミナー等の開催や啓発資材等の作成・配布を通じ、地域における消費者問題解決力の向上を図る。

(1) くらしの安全・安心セミナー（教育啓発G）

- ・ 一般消費者を対象に、食品、環境にやさしい暮らし方、悪質商法・トラブル、デジタル関係等に関する講座を開催する。

(2) 消費者教育セミナー（教育啓発G、デジタル推進・企画担当）

- ・ 小中高・大学等教員を対象に、教員が行う研究会等において若年者の消費者トラブルの被害実態や対策等に関する情報提供を行うほか、児童・生徒・学生を対象に出前教室を開催する。

(3) デジタル消費者被害セミナー（教育啓発G、デジタル推進・企画担当）

- ・ 既に設置されているネットワークの充実や新規設置を働きかけるための特に高齢者等を対象に、インターネット・SNSを通じた消費者被害を防ぐためのセミナーを開催する。

(4) リーフレット・啓発資材の作成等（教育啓発G、デジタル推進・企画担当）

- ・ 北海道消費者教育PRキャラクター「ちえ子さん」「かしこしか」を活用し、消費者教育などを分かりやすく解説したリーフレット等を作成し、特に若者を中心に配布するなど、消費者被害防止の普及啓発に努める。
- ・ 上記PRキャラクターを用いた消費者教育啓発資材を作成し、学校や消費者教育啓発セミナー等で活用するなど、消費者被害防止の推進に努める。

4 消費生活相談員配置事業

近年、特定商取引法違反、詐欺サイトによる被害などの生活経済事犯による被害が深刻化していることから、これらに対応し被害防止拡大のための警察等との連携を図るなど専門の相談員を配置する。

